

オーストリア消費者保護法 (KSchG) とその法理 (1)

加藤良三

目次

一 序

二 消費者保護法の内容

第一編 企業者と消費者間の契約の特則

第一章 適用範囲

第二章 一般規定

(1) 取消権

(2) 経費見積書

(3) 不当契約の構成要件

(4) 解約金

(5) 瑕疵担保責任

(6) 代理権の範囲と口頭による受諾

(7) 指図式手形の禁止

(8) 給料譲渡の禁止

(9) 期限の喪失 以上本号

一 序

本稿は、一九七九年に制定された「オーストリア消費者保護法」(Konsumentenschutzgesetz 1979 = KSchG)⁽¹⁾ の

全条文の試訳とその特色を論述することを目的とする。同法に関する法理論の詳細な研究は、別の機会にゆずることとするが、筆者が従来から研究をしている消費者信用法の比較法的研究の一環としての役割を、本稿が担うものであることを付記する。

この一九七九年の「消費者保護法」(KSchG) は、ハインツ・クライチの言葉を借りれば、「一九七九年一〇月一日施行の消費者保護法ほど、過去一〇年間に制定された如何なり法律よりも、一般契約法を包括的かつ根本的に改革した法律はない。同法の重要な使命は、商取引において不得手であるか、あるいはその他圧倒された契約当事者の利益のために (zum Vorteil verhandelungsschwacher oder sonst unterlegener Vertragspartner) 契約における実質的公平を高めるべく (zugunsten erhöhter materieller Vertragsgerechtigkeit) 法律行為の關係において、広くゆきわたっている契約の自由 (die weitgehend formale Vertragsfreiheit) をば制限せんとするにあつたが、そのために立法者は、制度(秩序)政策上および立法上の諸問題との対決を余儀された」と云われているほど、同法はまさに画期的立法であつたといえよう。しかし、それだけに、立法後に残された問題も多いわけである。消費者保護は、この立法で、すべての問題が解決されたわけではない。その実施に伴い、毎日新しい問題が提起されるため、同法の実際の適用を推進するには、未解決な疑問を可能な限りすみやかに、同意が得られる方法で、これに解決を与える必要があることが痛感されている⁽⁶⁾。

消費者保護法は (KSchG)、全三編四二ヶ条の条文からなっている。第一編は、「企業者と消費者間契約の特則」(Besondere Bestimmungen für Verträge zwischen Unternehmern und Verbrauchern) と題して、全三章から構成されており、第一章は、同法の適用範囲 (Geltungsbereich) を明定し (全二ヶ条)、第二章において、一般規定 (Allgemeine Regeln) (全十一ヶ条) を、第三章において、特殊な契約の種類 (Besondere Vertragsarten) に関する規定 (全十三ヶ条) を設けている。第二編は、「団体訴訟」(Verbandsklage) の規定 (全三ヶ条) であり、第三編

で「補充規定」(Ergänzende Bestimmungen)として、信用仲介(Kreditmittlung)(一ヶ条)、刑罰規定(Strafbestimmung)(一ヶ条)、更に、関連法規の修正、すなわち、暴利取締法、民事訴訟法および強制執行法などの修正に関する規定(全五ヶ条)と経過規定・最終規定(全三ヶ条)が設けられている。
この消費者保護法の中心的規定は、第一編にあることとなる。

註

- (1) 消費者保護法に関する文献としては、左記のものがある。
 - ・ Krejci, Konsumentenschutz und ABGB, ÖZW 1977 S. 65ff.
 - ・ Krejci/Schlicher / Steiniger, Konsumentenschutz, ABGB und Verfahrensrecht, Manz 1978.
 - ・ Welsler, Das Konsumentenschutzgesetz, Wirtschaftsberichte der CA-Bankverein Jg. 1979 Nr. 2 S. 6.
 - ・ Friedberg, Substitution und Konsumentenschutz, Anw Bl. 1979 S. 258 ff.
 - ・ Welsler, Anmerkungen zum Konsumentenschutzgesetz, JBl. 1979 S. 440 ff.
 - ・ Kaltenböck, Konsumentenschutzgesetz und Anwaltstätigkeit, Anw Bl. 1979 S. 394 ff.
 - ・ Meinhart, Mehr Rechte des Verbrauchers beim Verbrauchergeschäft, Verkehrsjurist 1979 S. 17 ff.
 - ・ Schumacher, Kfz-Leasing und Konsumentenschutzgesetz, ZVR. 1979 S. 280 ff.
 - ・ Fenyves, Die Auswirkungen des Konsumentenschutzgesetzes auf das Recht der Vertragsversicherung, VersRSch. 1979 S. 335.
- (2) Heinz Krejci, Handbuch zum Konsumentenschutzgesetz, Wien 1981. Vorwort.
- (3) Heinz Krejci, a. a. O.
„Handbuch zum Konsumentenschutzgesetz“ は、消費者保護法が提起する問題を諸問題の解決のための一助として、Prof. Heinz Krejci による講義として出版されたものであるが、同書の序に、同教授が、このように説くところ。

二 消費者保護法の内容

第一編 企業者と消費者間の契約の特則

第一章 適用範囲 (Geltungsbereich)

〔第一条〕

第一項

本編は、左の場合における法律行為に関し、これを適用する。

1、一方において、当該取引が、その者にとって自己の企業の營業に属する者 (jemand, für den das Geschäft zum Betrieb seines Unternehmens gehört) (以下「企業者」〈Unternehmer〉と略称⁽⁵⁾)、または

2、他方において、その者にとってこれが該当する者 (jemand, für den dies nicht zutrifft) (以下「消費者

〈Verbraucher〉と略称) 、

が、その法律行為に関与しているとき⁽⁵⁾。

第二項

前項第一号の意味での企業とは、独立した經濟活動を営む、長期的に設立されたすべての団体 (jede auf Dauer angelegte Organisation selbständiger wirtschaftlicher Tätigkeit) をいふ、これには營利を目的としなす団体も含まれる。公法上の法人は、これを常に企業と看做す (Juristische Personen des öffentlichen Rechts gelten immer als Unternehmer)⁽⁶⁾。

〔第二条〕

第一項

本編は、その適用により、本法において意図された法律効果が、他の場合において生ずるような規定 (Regelungen) ... nach denen die hier vorgesehenen Rechtsfolgen in anderen Fällen eintreten) にとらわれ、言及しない。⁽⁶⁷⁾

第二項

約定において、それが本編から逸脱し、消費者に不利になる場合に限り、その約定は、これを無効とす (Soweit im Vereinbarung von diesen Hauptstücke zum Nachteil des Verbrauchers abgewichen wird, sind sie unwirksam.)。⁽⁶⁸⁾

第二章 一般規定 (Allgemeine Regeln)

(1) 取消権 (Rücktrittsrecht)⁽⁶⁹⁾

〔第三条〕

第一項

企業者がその営業目的のために継続して使用する営業所、または企業者がその営業目的のために定期市場もしくは市場において使用する場所以外の場所において、消費者が契約上の表示をなしたときは、消費者はその契約の申込またはその契約を取り消すことができる (Hat der Verbraucher seine Vertragsklärung weder in den vom Unternehmer für seine geschäftlichen Zwecke dauernd benützen Räumen noch bei einem von diesem dafür auf einer Messe oder einem Markt benützten Stand abgegeben, so kann er von seinem Vertragsantrag oder vom Vertrag zurücktreten.)。

この取消は、契約成立のときまでに、またはその後一週間以内に、その旨を表示してこれをなすことができる。取消期間は、少なくとも、企業者の氏名および住所ならびに取消権に関する忠告が記載された文書が消費者に交付され

たところから始まるものとす。

割賦営業に関係がなく、かつ企業者の氏名および住所が、消費者に公示をなれてゐるときは、取消権は、遅くとも契約成立後一ヶ月の経過により消滅する（Dieser Rücktritt kann bis zum Zustandekommen des Vertrages oder danach binnen einer Woche erklärt werden; die Frist beginnt mit der Ausfolgung einer Urkunde, die zumindest den Namen und die Anschrift des Unternehmers sowie eine Belehrung über das Rücktrittsrecht enthält, an den Verbraucher, frühestens jedoch mit dem Zustandekommen des Vertrages zu laufen. Handelt es sich nicht um ein Abzahlungsgeschäft (§ 16) und ist dem Verbraucher der Name und die Anschrift des Unternehmers bekanntgegeben worden, so erlischt das Rücktrittsrecht spätestens einen Monat nach dem Zustandekommen des Vertrages.)。

第二項

企業者またはその企業者と協同関係にある第三者が、消費者を広告、旅行または類似の催し物の範囲内で、その企業者により営業目的のために使用される場所に案内したときもまた、取消権は成立する（Das Rücktrittsrecht besteht auch dann, wenn der Unternehmer oder ein mit ihm zusammenwirkender Dritter den Verbraucher in Rahmen einer Werbefahrt, einer Ausflugsfahrt oder einer ähnlichen Veranstaltung in die vom Unternehmer für seine geschäftlichen Zwecke benützten Räume gebracht hat.)。

第三項

左の場合には、取消権は消費者に帰属しない。

1. 消費者自身が、契約を締結する目的で、企業者またはその代理人と取引上の関係を持つに至ったとき（wenn er selbst die geschäftliche Verbindung mit dem Unternehmer oder dessen Beaufragten zweck Schließung

dieses Vertrages angebahnt hat).

2 契約の成立に先立ち、関係者またはその代理人において、如何なる交渉もなされていなかったとき (wenn dem Zustandekommen des Vertrages keine Besprechungen zwischen den Beteiligten oder ihren Beauftragten vorangegangen sind) へんじ

3 左のいずれの場合で、双方の履行が直ちになされることを要するときは (Bei Verträgen, bei denen die beiderseitigen Leistungen sofort zu erbringen sind)。

a 契約が、通常企業者によつてその営業所以外の場所で締結され、かつその約定金額が一〇〇シリングを超えないときは (wenn sie üblicherweise von Unternehmern außerhalb ihrer Geschäftsräume geschlossen werden und das vereinbarte Entgelt 100s nicht übersteigt) へんじ または

b 事業がその性質上、一定の常設の営業所で営まれておらず、かつその支払金額が三〇〇シリングを超らないときは (wenn das Unternehmen nach seiner Natur nicht in ständigen Geschäftsräumen betrieben wird und das Entgelt 300s nicht übersteigt)。

第四項

取消は、それが法律上効力を有するためには (zu seiner Rechtswirksamkeit) 書面によることを要す。

消費者は、自己の契約の表示または企業者のそれが記載された文書 (ein Schriftstück, das seine Vertragserklärung oder die des Unternehmers enthält) に、その契約の成立もしくはその維持を拒む旨を知らしめる文句を含む (mit einem Vermerk ..., der erkennen läßt, daß der Verbraucher das Zustandekommen oder die Aufrechterhaltung des Vertrages ablehnt) ことをその企業者または契約交渉に協力した企業者の代理人に対して、返送すれば足りる。かかる表示は、第一項に定める期間内に、郵送すれば足りる。

〔第四条〕

第一項

消費者が、⁽¹⁾第三条により、契約を取消したるときは、

1、企業者は、その受領したすべての給付（金銭）につき、受領の日からの法定利息を含めて、これを返済すべきことを要し（…, so hat der Unternehmer alle empfangenen Leistungen samt gesetzlichen Zinsen vom Empfangstag an zurückzuerstatten）⁽²⁾、またその物品につき、消費者が支出したる必要かつ有益な経費は、これを弁償すべきことを要す（…, (so hat) der Unternehmer den vom Verbraucher auf die Sache gemachten notwendigen und nützlichen Aufwand zu ersetzen）。

2、消費者は、その受取った給付（目的物）を返還することを要し、またその給付（目的物）の利用に伴う通常の価値の減少に対する補償を含めて、⁽³⁾ 妥当な利用代金を、企業者に支払うことを要す（…, (so hat) der Verbraucher die empfangenen Leistungen zurückzustellen und dem Unternehmer ein angemessenes Entgelt für die Benützung, einschließlich einer Entschädigung für eine damit verbundene Minderung des gemeinen Wertes der Leistung, zu zahlen）。

消費者が給付（目的物）を受領し、これを保管することのみをもって、価値の減少と看做すことを得ず（die Übernahme der Leistung in die Gewahrsame des Verbrauchers ist für sich allein nicht als Wertminderung anzusehen）。

第二項

企業者によって既に提供された給付（目的物）につき、その返還ができなから、もしくはな実行できなからるときは（Ist die Rückstellung der vom Unternehmer bereits erbrachten Leistungen unmöglich oder untunlich）⁽⁴⁾、消費者

は、その給付が自己にとって明白かつ有力な利益となる限り (soweit sie ihm zum klaren und überwiegenden Vorteil gereichen)、企業者に対して、その価格を弁償することを要す。

第三項

第一項及び第二項の規定は、損害賠償請求権とは無関係である。

(2) 経費見積書 (Kostenvoranschläge)

〔第五条〕

第一項

ABGB 第二一七〇条^aの意味での経費見積書が企業者によって作成された場合は、事前にその作成につき代金支払の義務あることを知らされておるときにかぎり、消費者はその支払をなすことを要す (Für die Erstellung eines Kostenvoranschlags im Sinn des § 1170a ABGB. durch den Unternehmer hat der Verbraucher ein Entgelt nur dann zu zahlen, wenn er vorher auf diese Zahlungspflicht hingewiesen worden ist.)。

第二項

企業者の経費見積書に基づき契約がなされている場合に、その反対の旨の明白な表示がないときは、その経費見積書の正当性は保証されたものと看做す (Wird dem Vertrag ein Kostenvoranschlag des Unternehmers zugrunde gelegt, so gilt dessen Richtigkeit als gewährleistet, wenn nicht das Gegenteil ausdrücklich erklärt ist.)。

(3) 不当契約の構成要件 (Unzulässige Vertragsbestandteile)⁽²⁾

〔第六条〕

第一項

とりわけ、左に該当する契約条項は、ABGB 第八七九条の意味では、いずれにせよ、消費者にとって拘束力を有

つなら (nicht verbindlich)。

1、企業者が不相当に長い期間⁽²¹⁾または不十分な一定(確定)期間⁽²²⁾を留保し、企業者はその間消費者の契約の申出を受領するか、または拒むことができ、あるいはその間消費者はその契約に拘束される ((solche Vertragsbestimmungen... nach denen) sich der Unternehmer eine unangemessen lange oder nicht hinreichend bestimmte Frist ausbedingt, während deren er einen Vertragsantrag des Verbrauchers annehmen oder ablehnen kann oder während deren der Verbraucher an den Vertrag gebunden ist:;)。

2、消費者が、そのために予定された期間の当初に、その態度の重要性につき、特に指示を受け、かつ明白な表示の伝達のために適当な期間がある場合を除き (es sei denn, der Verbraucher wird bei Beginn der hierfür vorgesehenen Frist auf die Bedeutung seines Verhaltens besonders hingewiesen und hat zur Abgabe einer ausdrücklichen Erklärung eine angemessene Frist)、『消費者のもる確定的態度が、或る表示の伝達もしくは不伝達と看做す⁽²³⁾ (ein bestimmtes Verhalten des Verbrauchers als Abgabe oder Nichtabgabe einer Erklärung gilt.)』。

3、消費者が、企業者に対して任所変更の届け出をしていない場合に、消費者の最終の知れたる任所に宛郵送された企業者の表示に關し、その効力が重要ではなから限りにおいて (sofern es sich nicht um die Wirksamkeit einer an die zuletzt bekanntgegebene Anschrift des Verbrauchers gesendeten Erklärung für den Fall handelt, daß der Verbraucher dem Unternehmer eine Änderung seiner Anschrift nicht bekanntgegeben hat)、『消費者にとりて法律上重要な企業者の表示につき、それが消費者に届いていないことをいふ』、『消費者に通知がなされたものと看做す⁽²⁴⁾ (eine für den Verbraucher rechtlich bedeutsame Erklärung des Unternehmers, die jenem nicht zugegangen ist, als ihm zugegangen gilt)』。

4、消費者から企業者もしくは第三者に提出されるべき届出および意思表示は、その書式以上に厳格な形式⁽¹⁸⁾、もしくは特別の連絡要件を満すことを要する (eine vom Verbraucher dem Unternehmer oder einem Dritten abzugebende Anzeigebrief oder Erklärung einer strengeren Form als der Schriftform oder besonderen Zugangsfordernissen zu genügen hat.)。

5、その増額につき決定的な事情が、契約中に記載されており、かつその発生が企業者の意志にかかわっていない場合を除き (es sei denn, daß die für die Erhöhung maßgebenden Umstände im Vertrag umschrieben sind und ihr Eintritt nicht vom Willen des Unternehmers abhängt,)、契約の締結時にさして確定された代償より高い金額につき、企業者はその履行の請求より、その権利を有する (dem Unternehmer auf sein Verlangen für seine Leistung ein höheres als das bei der Vertragsschließung bestimmte Entgelt zusteht.)。

6、反対給付の履行もしくはその保証あるまで、ABGB 第一〇五二条にもとづき、その履行を拒絶することができ、消費者の権利につき、たとえは、かかる給付拒絶権は、企業者が自己の給付の瑕疵を知っているか否かにかかわることから (ために)、次の場合に、これを排除もしくは制限する。すなわち、企業者が契約通りにその給付を提供しないか、または契約締結の当時、消費者に知られていないか、知れる筈もなかった企業者の不良な財産状態のために、その給付の提供が危ぶまれてくること (das Recht des Verbrauchers, seine Leistung nach § 1052 ABGB. bis zur Rewirkung oder Sicherstellung der Gegenleistung zu verweigern, für den Fall ausgeschlossen oder eingeschränkt wird, daß der Unternehmer seine Leistung nicht vertragsgemäß erbringt oder ihre Erbringung durch seine schlechten Vermögensverhältnisse, die dem Verbraucher zur Zeit der Vertragsschließung weder bekannt waren noch bekannt sein mußten, gefährdet ist, indem etwa das Leistungsverweigerungsrecht davon abhängig gemacht wird, daß der Unternehmer Mängel seiner Leistung anerkennt.)。

Rechte des Verbrauchers auf eine Sache, die der Unternehmer zur Bearbeitung übernommen hat, in unangemessen kurzer Frist verfallen.)。

第二項

企業者が、左の契約条項につき、個々に交渉されたことを立証しな限り、⁽²²⁾ また同じ (Sofern der Unternehmer nicht beweist, daß sie im einzelnen ausgehandelt worden sind, gilt das gleiche auch für Vertragsbestimmungen.)。

1、企業者は、⁽²²⁾ 実際上の正当化 (弁明) を要せず、契約を解除することが出来る (der Unternehmer ohne sachliche Rechtfertigung vom Vertrag zurücktreten kann)。

2、企業者は、その義務または契約全体に関し、⁽²³⁾ 契約中に特に指名されていぬ第三者に、これを取り次ぐ権利が与えられ、これにつき如何なる責任も負わな⁽²³⁾ら (dem Unternehmer das Recht eingeräumt wird, seine Pflichten oder den gesamten Vertrag mit schuldbeitretender Wirkung einem Dritten zu überbinden, der im Vertrag nicht namentlich genannt ist;)。

3、企業者のなすべき給付の変更または変形が、とくにそれが取るに足りなくかつ實際的に正当とされることから、消費者にとり期待できる場合を除き、企業者がそのなすべき給付につき、これを一方的に変更するか、またはこれと異なる給付をなすことが出来る (der Unternehmer eine von ihm erbringende Leistung einseitig ändern oder von ihr abweichen kann, es sei denn, die Änderung beziehungsweise Abweichung ist dem Verbraucher zumutbar, besonders weil sie geringfügig und sachlich gerechtfertigt ist;)。

4、契約締結後二ヶ月以内に履行されるべき給付に関しては、企業者は、当初決定された代金より高額を、請求する権利を有する (dem Unternehmer auf sein Verlangen für seine innerhalb von zwei Monaten nach der

Vertragsschließung zu erbringende Leistung ein höheres als das ursprünglich bestimmte Entgelt zusteht.)。

5、企業者は、その加工のために引き受けた物品の損害につき、賠償責任が免責されるかまたは制限される (eine Pflicht des Unternehmers zum Ersatz eines Schadens an einer Sache, die er zur Bearbeitung übernommen hat, ausgeschlossen oder beschränkt wird.)。

(4) 解約金 (Reugeld)

〔第七条〕

消費者が、解約金の支払義務を負う場合には、⁽²⁾ 裁判官は、ABGB 第一三三六条第二項を準用し、これを強制する
ことになり得る (Ist der Verbraucher zur Zahlung eines Reugeldes (§ 900 ABGB.) verpflichtet, so kann es der
Richter in singemäßiger Anwendung des § 1336 Abs. 2 ABGB. mäßigen.)。

(5) 瑕疵担保 (Gewährleistung)

〔第八条〕

第一項

企業者が、ABGB 第九三二条に基づき、その給付の改善または不足の補充をなす義務を負う場合は、かかる義務の履行は、左の場所におつてこれをなすことを要す (Ist der Unternehmer nach § 932 ABGB. verpflichtet, seine Leistung zu verbessern oder Fehlendes nachzutragen, so hat er diese Pflicht zu erfüllen.)。

1、その物品が引渡された場所。企業者が、その物品を契約に従い国内のある場所に運送または発送したるときは、その場所が引渡場所となる。消費者がそれを請求したるとき、又同じ (an dem Ort, an den die Sache übergeben worden ist; hat der Unternehmer die Sache vertragsgemäß nach einem im Inland gelegenen Ort befördert oder versendet, so tritt dieser Ort an die Stelle des Übergabortes; oder wenn es der Verbra-

ucher verlangt)。

2、その物品が通常置かれてゐる場所。これは、その場所が国内にあって、企業者にとって思いがけない場所でない場合⁽²⁵⁾、及びその物品の種類により、特にそれがかさがあり⁽²⁶⁾、重く、あるいは取付により固定されるため、企業者への運送が消費者にとって実行不可能な場合に限られる (an dem Ort, an dem sich die Sache gewöhnlich befindet, sofern dieser Ort im Land gelegen ist, für den Unternehmer nicht überraschend sein mußte und sofern nach der Art der Sache deren Beforderung zum Unternehmer für den Verbraucher untunlich ist, besonders weil die Sache sperrig, gewichtig oder durch Einbau unbeweglich geworden ist.)。

第二項

その物品を企業者に送ることが、消費者にとって可能な場合には、企業者はその送付を請求することができる。この場合には、企業者は、その危険と費用を負担しなければならぬ (Ist es für den Verbraucher tunlich, die Sache dem Unternehmer zu senden, so kann dieser diese Übersendung verlangen, er hat jedoch deren Gefahr und Kosten zu tragen.)。

〔第九条〕

消費者の瑕疵担保請求権は、左の合意による場合に限り、これを制限することができる。⁽²⁷⁾

1、種類債権の場合は、企業者は、相当な期間内にその瑕疵ある物品を瑕疵のない物品と交換することによって、契約の解除または相当な減額請求を免れることができる (Vereinbarungen ..., nach denen sich der Unternehmer bei einer Gattungsschuld von den Ansprüchen auf Aufhebung des Vertrages oder auf angemessene Preis-minderung dadurch befreien kann, daß er in angemessener Frist die mangelhafte Sache gegen eine mangel-freie austauscht.)。

2、企業者は、相当な期間内に消費者の期待できる方法で改善をなすか、あるいは不足の補充をなすことによつて、相当な減額を承認すべき義務を免れることができない (Vereinbarungen ..., nach denen sich der Unternehmer von der Pflicht zur Gewährleistung einer angemessenen Preisermäßigung dadurch befreien kann, daß er in angemessener Frist in einer für den Verbraucher zumutbaren Weise eine Verbesserung bewirkt oder das Fehlende nachträgt)。

(6) 代理権の範囲と口頭による受諾 (Umfang der Vertretungsmacht und mündliche Zusagen)

〔第一〇条〕

第一項

企業者が授与した代理権は、消費者との取引に関しては、通常この種の取引に必然的に伴うすべて法律行為に及ぶ。代理権の範囲に関する特別の規定は、本条とは関係はない。⁽²⁹⁾

この代理権に加えた制限は、それが消費者に知られたるときに限り、その効力を有する (Eine Vollmacht, die ein Unternehmer erteilt hat, erstreckt sich im Verkehr mit Verbrauchern auf alle Rechtshandlungen, die derartige Geschäfte gewöhnlich mit sich bringen, besondere gesetzliche Regeln über den Umfang der Vollmacht bleiben davon unberührt. Eine Beschränkung dieser Vollmacht ist dem Verbraucher gegenüber nur wirksam, wenn sie ihm bewußt war.)。

第二項

代理権の制限につき、消費者が重大な過失によりこれを知らなかったときは、企業者は——他の規定によるこの状態の効力とは関係なく——その契約を解除する権利を有す。

その解除は、企業者が代理人の権限の踰越および消費者の重大な過失が生じた状態を通知したる後遅滞なく、これ

を表示するべきを要せず (War dem Verbraucher die Beschränkung der Vollmacht nur infolge grober Fahrlässigkeit nicht bewußt, so hat der Unternehmer—unbeschadet der Geltendmachung dieses Umstandes nach anderen Bestimmungen—das Recht, vom Vertrag zurückzutreten; der Rücktritt muß unverzüglich nach Kenntnis des Unternehmers von der Überschreitung durch den Vertreter und den Umständen, aus denen sich die grobe Fahrlässigkeit des Verbrauchers ergibt, erklärt werden.)⁶⁾

第三項

企業者もしくはその代理人による一定の方式によらない表示の法律上の効力は、消費者の不利益のために、契約上これを無効とすることなすべし⁽¹⁷⁾ (Die Rechtswirksamkeit formloser Erklärungen des Unternehmers oder seiner Vertreter kann zum Nachteil des Verbrauchers vertraglich nicht ausgeschlossen werden.)⁶⁾

(7) 指図式手形の禁止 (Verbot des Orderwechsels)

〔第一条〕

第一項

企業者が手形の受取人 (Art. I Z. 6, Art. 75 Z. 5 des Wechselgesetzes 1955) であり、かつその手形に「非指図式」なる旨の文言、またはこれと同義の記載がある場合にかぎり、企業者は、消費者に対する債権の代りとして、消費者の手形上の債務が認容される。本条違反は、その手形の法律上の効力には関係がなす⁽¹⁸⁾ (Der Unternehmer darf sich für seine Forderungen an den Verbraucher eine Wechselverbindlichkeit eines Verbrauchers nur einräumen lassen, wenn der Unternehmer Wechselnehmer <Art. I Z. 6, Art. 75 Z. 5 des Wechselgesetzes 1955> ist und der Wechsel die Worte „nicht an Order“ oder einen gleichbedeutenden Vermerk enthält. Eine Verletzung dieser Bestimmung läßt die Rechtswirksamkeit des Wechsels unberührt.)⁶⁾

第二項

第一項に違反したるときは、手形を支払った各消費者は、企業者に対して、償還請求額に相当する金額の支払請求権を有す。但し、企業者が、消費者は手形債務の引受または履行により、手形外にも存在するこの金額の支払義務を免れることを立証したるときは、この限りではない。(Ist dem Abs. 1 nicht entsprochen worden, so hat jeder Verbraucher, der den Wechsel eingelöst hat, an den Unternehmer einen Anspruch auf Zahlung eines Betrages in der Höhe der Rückgriffsumme, soweit nicht der Unternehmer beweist, daß der Verbraucher durch die Übernahme oder Erfüllung der Wechselverbindlichkeit von einer auch ohne den Wechsel bestehenden Pflicht zur Zahlung dieses Betrages befreit worden ist.)

(8) 給料譲渡の禁止 (Verbot der Gehaltsabtretung)

〔第一二条〕

第一項

消費者の賃銀または給料請求権は、期限未到来の請求権の担保または弁済のために、これを企業者に譲渡してはならない。(Eine Lohn- oder Gehaltsforderung des Verbrauchers darf dem Unternehmer nicht zur Sicherung oder Befriedigung seiner noch nicht fälligen Forderungen abgetreten werden.)

第二項

第一項に違反して譲渡された賃銀または給料債権にもとづき、事業主が企業者もしくは第三者に対してその金額の支払をなし、それにより、事業主が消費者の賃銀または給料請求権を免れる効力が生ずる場合には、消費者は企業者に対してこの金額の賠償請求権を有す。但し、企業者が、消費者は賃銀または給料債権の譲渡ないしその支払によって、債務を免れることを証明したるときは、この限りではない。(Hat der Dienstgeber dem Unternehmer oder

einem Dritten auf Grund einer entgegen dem Abs. 1 abgetretenen Lohn- oder Gehaltsforderung Beträge mit der Wirkung gezahlt, daß er von der Lohn- oder Gehaltsforderung des Verbrauchers befreit worden ist, so hat der Verbraucher an den Unternehmer einen Anspruch auf Ersatz dieses Betrages, soweit nicht der Unternehmer beweist, daß der Verbraucher durch die Abtretung oder die Bezahlung der Lohn- oder Gehaltsforderung von einer Schuld befreit worden ist.)

(9) 期限の喪失 (Terminverlust)

〔第一三条〕

消費者が、その債務を賦払で返済する必要があり、かつ企業者が、その賦払金額および附帯請求権の不払の場合に、未払債務総額につき即時支払請求権を留保するときは、企業者自身が既にその給付の履行をなし、消費者の未払履行分が期限到来後少なくとも六週間経過しており、かつ企業者が期限喪失の措置をとる旨を伝え、少なくとも二週間の期間延長の上で、その督促をなしたが、その効果がなかった場合⁽²⁾にのみ、この権利を行使することができる。(Hat der Verbraucher seine Schuld in Raten zu zahlen und hat sich der Unternehmer für den Fall der Nichtzahlung von Teilbeträgen oder Nebenforderungen das Recht vorbehalten, die sofortige Entrichtung der gesamten noch offenen Schuld zu fordern〔Terminverlust〕, so darf er dieses Recht nur ausüben, wenn er selbst seine Leistungen bereits erbracht hat, zumindest eine rückständige Leistung des Verbrauchers seit mindestens sechs Wochen fällig ist sowie der Unternehmer den Verbraucher unter Androhung des Terminverlustes und unter Setzung einer Nachfrist von mindestens zwei Wochen erfolglos gemahnt hat.)

註

(4) これは、同条第二項を含めて、商法 (HGB) 第三四三条に対応する。しかし、同条第三項の制限がある (FN 1))。

(5) いわゆる「消費者取引」(“Verbrauchergeschäfte”)をこゝ。なほこの場合、この概念が「消費者」と「企業者」を互に締結してゐる。

或る企業者とのすべての取引は、他の當事者によつて第一項一母にいう取引に當りな場合でも、その者によつては、それは第二母にいう取引となり、したがつて、消費者取引となる (Jedes Geschäft mit einem Unternehmer, das für den anderen nicht auch ein Geschäft i. S. der Z. 1 ist, für ihn ein Geschäft i. S. der Z. 2 (RV) und daher Verbrauchergeschäft.) (FN 2)).

(6) しかしながら、公法上の法人の場合には、かかる法人の私經濟的執行 (Privatwirtschaftsverwaltung) のみがこれに属したとせば、こゝの処理および汚水処理のこゝを公法上の執行行為に含められなく (FN 3)).

(7) なお、疑ひのある場合に、類推か、類推適用しなく (Analogie oder Umkehrschluss) か、今までの法律状態に何らかの批難があつて、その批難につき同意を示されざるを以て、原則として類推に有利に決定されなければならなく (Ob Analogie oder Umkehrschluss bzw. die Annahme einer Derogation der bisherigen Rechtslage geboten sei, ist grundsätzlich zugunsten der Analogie zu entscheiden) (RV). (FN 1)).

(8) 本項は、「消費者のための一方向的に有力な権利」(einseitig zwingendes Recht zugunsten des Verbrauchers) を規定してゐる。如何なる有利性の比較も存在しなく。すなわち、すべての個々の契約条項が、それ自体吟味・検討されることを要するむじみ (Kein Günstigkeitsvergleich; jede einzelne Vertragsbestimmungen ist für sich zu prüfen.) (FN 3)).

(9) Siehe auch § 6 (2) Z. 1

取消権は、この外に、Gew O (1973) の § 54 Abs. 3 及び § 60 によつて (FN 1, 2)).

(10) これは、いわゆる「訪問販売」(“Hausfürgeschäfte”) の場合をこゝ (FN 3)).

(11) ABGB 第九一八条にまつて、取消の場合に、一般原則 (allgemeine Regeln) (Vgl. ABGB. § 921) が適用される (FN 1)).

(13) 不当な契約構成要件に関する文献として、左記のものがある。

• Friedberg, Substitution und Konsumentenschutzgesetz, AnwBl. 1979 S. 258 ff.

• Moser, Anwaltungsvollmacht und Konsumentenschutzgesetz, AnwBl. 1979 S. 337 ff.

• Stölzle, Nachmals: Substitution und Konsumentenschutzgesetz, AnwBl. 1979 S. 339 ff.

- (14) Vgl. § 802 ABGB. (FN 3))
- (15) Vgl. § 904 ABGB. (FN 4))
- (16) Z. B. "Stillscheigen". (FN 6))
- (17) Vgl. § 862 a ABGB. (FN 7))
- (18) 以下の「替置」による交換などは (insbes. „eingeschrieben“).
- (19) Vgl. § 391 (3) ZPO (FN 9))
- (20) 「実質」(Freizeichnung). Vgl. ABGB. § 870 E. 80 (FN 10))
- (21) 以下の「目的物の価値による算定」によるものは (FN 11)。
- (22) 選択契約によるものについては (Optionsverträge fallen nicht darunter) (FN 13))
- (23) Vgl. ABGB. §§ 1405, 1406 (FN 14))
- (24) 本条は「消費者が一方的解除権を行使して、それにより解約金を支払う義務を負う場合」のみ適用される (Vgl. ABGB. § 909 E. 20) (FN 1))
- (25) 以下の「契約前提の認識が基準」による (Maßgebend ist die Kenntnis im Zeitpunkt der Vertragsschließung (AB.)) (FN 1))。
- (26) 通常の方法で企業者の使用する運送手段では運送すべき場合、公式の運送約款に含まれた概念規定は、この場合の基準となる (nicht mit den ihm üblicherweise zur Verfügung stehenden Transportmitteln beförderbar; die in öffentlichen Transportbedingungen enthaltene Begriffsbeschreibung ist nicht maßgeblich.) (AB. (FN 3))。
- (27) 強制執行 (Zwingendes Recht)
Vgl. ABGB. § 920 E. 2a-14
- (28) この内容的な必須性が標準となる「たゞそれ」を以てする慣行によるもの (Auf objektive Erforderlichkeit abgestellt, nicht etwa auf eine dahinter zurückbleibende Übung.) (FN 1))。
- (29) Vgl. ABGB. § 1020, HGB. §§ 54ff., HVG. § 4. (FN 2))

- (30) Vgl. W.G. § 17; ferner BG. BGBI. 137/1960, § 5 (7) (FN 3))
- (31) Vgl. ABGB. § 884 E. 9. (FN 4))
- (32) すなわち記名式手形 (裏書禁止手形) (Rektawechsel) をいう (Vgl. W.G. Art. 11 Abs. 2) (FN 2))
- (33) 本条は、たとえば消費者の保証人が消費者であるときは、この保証人にも適用がある (RV.) (FN 1))。
- (34) Siehe auch § 24(1)2, 9. (FN 4))
- (35) この消費者には保証人もまた含まれる (Vgl. RatG. § 13) (FN 5))。
- (36) これに対して、入質は許される。本条違反の場合には、第三二条一項二・三号参照 (FN 1)2))。
- (37) 督促は、既にこの六週の期間中に発することがある (Vgl. RatG. § 6) (FN 1))。